



キャンパス・コンソーシアム函館

合同公開講座

函館学 2020

第3回講義

講義資料

アイヌ民族と貨幣

～地域通貨・箱館通宝鉄銭から考える～

講師：安木 新一郎

函館大学 准教授

日時：令和2年10月24日（土）

13:30～15:00

会場：函館大学

主催：キャンパス・コンソーシアム函館



キャンパス・コンソーシアム函館

安木 新一郎（やすき しんいちろう）

函館大学商学部 准教授

専門分野

複雑系経済学、貨幣史、ロシア極東研究

講師略歴

昭和52年（1977年）兵庫県生まれ

大阪市立大学大学院経済学研究科修了（修士（経済学））

外務省在ウラジオストク日本国総領事館専門調査員、

国立民族学博物館・特別共同利用研究員などを経て現職

専門は経済学、貨幣史、ロシア極東地域研究ジョチ朝（キプチャク・ハン国）史

また、シジミの生態・流通についても研究している

キャンパス・コンソーシアム函館合同公開講座
函館学2020
第3回

アイヌ民族と貨幣

—地域通貨・箱館通宝鉄銭から考える—

函館大学商学部
准教授 安木 新一郎
yasuki@hakodate-u.ac.jp

報告者紹介

- 安木新一郎(やすき・しんいちろう)
- 昭和52年(1977年)兵庫県生まれ
- 大阪市立大学大学院経済学研究科修了(修士(経済学))
- 専門分野…複雑系経済学、貨幣史、ロシア極東研究

2

はじめに

- なぜ貨幣なのか？
蝦夷地史(北海道・樺太・千島・カムチャツカ南部史＝アイヌモシリ/松前藩領)の可能性
…日本人とアイヌ人を含む北方諸民族を主体として、中華帝国とロシア帝国・ソ連が関わってくる。

* 北方民族
アイヌ、ウイльта、ニブヒ、サハ(ヤクート)など

3

カムチャツカの寛永通宝銅銭

- 「寛永通宝」銅銭
日本・幕府の公認銭貨＋清朝でも流通。

←カムチャツカのアイヌ人はどうやって銭を手に入れたのか？(流入経路)

[三宅]

4

アイヌ人にとっての銭

- 装飾品としての銭の利用
←基本は「物々交換」。[関根2016]

…しかしながら、松前藩は銭使用を禁止。幕府は銭の流通を促進。
→アイヌ人側が銭を拒否していたとは考えられない。

5

貨幣が語る蝦夷地史

- 日本人とアイヌ人の関係(幕府の蝦夷地政策)←今日はここ！
- 清朝やサンタン人(ニブヒ人)との関係(日清関係)
- 侵略者ロシアとの関係(華夷秩序の破壊者としてのロシア)
- 箱館開港後の英国・上海との関係(国際金融都市としての箱館)

6

江戸時代の貨幣制度

- 金貨・銀・銭＋紙幣(私札・藩札)

…原則、幕府発行の金貨・銀とこれに裏付けされた紙幣に加え銭が流通。

→東は金貨と銭、西は銀と紙幣

7

徳川吉宗(1716-51)の経済政策

- デフレ(貨幣不足)の脱却策
 - ①藩札の通用の公認
 - ②金銀の改鑄(品位を下げる)
 - ③青銅銭から鉄銭へ(1739年)
＝「寛永通宝」鉄銭

8

長谷川平蔵の銭高誘導策の失敗

- 老中・松平定信(1787-93)の緊縮財政政策＋浅間山の噴火＋寒冷化

→物価の下落→貨幣供給量を下げたい

→**銭を減らしたい**(@江戸市中)

9

前期幕領期(1807-21)

- ロシアの侵略＋松前藩への不信
…ロシア使節の隠蔽、アイヌ人への苛政
→蝦夷地の幕領化
- * 羅刹と呼ばれたロシア・コサック
…例)ステラーカイギュウ、ラッコの毛皮乱獲
カムチャダールの反乱
択捉島襲撃

10

毛皮の重要性

- ①毛皮…クロテン、オコジョ、ビーバー、ラッコ、キツネ、リスなど
- ②欧州・中華圏では権威と富の象徴
- ③ロシア→シベリア→アラスカ→カリフォルニア→樺太・千島
英国→カナダ(ハドソン湾(1670))
…中国向け輸出

11

サンタン交易

満洲～アムール河～樺太～蝦夷地～松前
の中継交易

清朝から下賜あるいは購入した錦を売って、日本の物産(おもに毛皮)を買う。
→清朝は毛皮が欲しい

[佐々木1995]

12

アイヌ人と毛皮

- エゾシカの重要性@日高・胆振
…食糧、毛皮(衣服・交易品)
→17世紀から大量捕獲の本格化
←清朝の成立(アイシングョロ・ヌルハチは毛皮交易の管理者)・毛皮需要の増大・サンタン交易の隆盛
→松前藩の完成

[関根2016]

13

アイヌ人困窮化の理由

- ①松前藩による渡航制限
- ②寒冷化(内地では海面低下により耕地面積が増えるが、蝦夷地は生業の多様性が削られる)
- ③支笏湖南側の樽前山の噴火(1667)
 - エゾシカ急減→集団間の抗争激化
 - シャクシャインの戦い(1669)

14

鹿皮の価格

- ・大:400~600文
- ・中:300~500文
- ・小:100~400文

[稲葉解説1992]

←文建ての価格表示

(参考:ゆで卵1個20文、米1升60文。1文=20円@江戸)

15

松前藩の政策

- ・アイヌ人との交易は物々交換
- ←アイヌ人側が銭を使っていない。
+
- 「物々交換」…アイヌ人に不利な交易条件・労賃(現物)を押し付ける

16

幕府の銭散布

- ・寛永通宝鉄銭の蝦夷地への移出
- …江戸の銭を減らしたい

←江戸での銭安効果はなかったが、「アイヌ人援助や経済開発(開発資金増)に効果があった」と言いたい幕府側の思惑。

→松浦武四郎の批判[弥永]

17

後期幕領(1855-)と鉄銭

- ・1854 日米和親条約
 - ・1855 箱館開港。奉行設置
 - ・1857 鉄銭鑄造許可
 - …「箱館通宝」
- 鉄銭。円形円孔。裏側に「安」(安政)。量目0.8-1匁(3-3.73g)。南部の職人と鉄を使用。
銭6,800文=金1両。

18

箱館通宝の特殊性

- ・幕府が自ら作った地域限定貨幣は3つしかない
- ①但馬・生野銀山…銀貨
- ②佐渡金山…金貨
- ③箱館通宝鉄銭…発行枚数1億枚(10万650貫文。製造@谷地頭は安政4年2月から(通用開始は閏5月から)5年11月まで)

19

なぜ作ったのか？

①箱館の需要・・・鉄銭不足

②アイヌ人対策

箱館・松前・蝦夷地の3大区分

・・・蝦夷地に3万貫をまわし、アイヌ人役人の給料・手当、奉行巡回時の賑恤・賞与として散布。

20

鉄銭のその後

- ・ 急速に普及後、急速に忌避
←銅銭の流入

文久永宝四文銭(青銅銭)

天保通宝百文銭

+

おそらく寛永通宝銅銭

21

逆グレシャムの法則

- ・ 銭は清では高く、日本では安い。
・・・箱館で寛永通宝銅銭を買って、上海に持って行って銀と交換し、また箱館にもってくる、というのを繰り返す。

→裁定取引によって箱館に銅銭と外国商人が引き寄せられ、「良貨が悪貨を駆逐した」。

22

その後の蝦夷地

- ・ 武蔵小菅の鉄銭の流入
←鉄銭需要はあったが、箱館での生産は停止。
→江戸での鉄銭の飽和。
=江戸市中の銭の需給調整のための蝦夷地。
・・・植民地的発想。というよりか江戸の武士のこと以外考えていない。
→アイヌ人救済は表向き。

23

参考文献

- ・ 関根達人[2016]『モノから見たアイヌ文化史』、吉川弘文館。
- ・ 高木久史[2016]『通貨の日本史』、中公新書。
- ・ 弥永芳子[1977]『箱館通宝鑄造の顛末』、北海道貨幣史研究会。
- ・ 稲葉一郎解説[1992]『入北記』、北海道出版企画センター。
- ・ 佐々木史郎[1995]『北から来た交易民』、NHK出版。
- ・ 三宅俊彦[2005]『中国の埋められた銭貨』、同成社。
- ・ 丸田勲[2011]『江戸の卵は1個400円！』、光文社新書。
- ・ 『北海道史』。

24

ご清聴ありがとうございました。

令和2年10月24日
やすき・しんいちろう

25